

# NOW IS.

宮城は現在も  
いま  
現実に  
立ち向かう。

2018.9.11

Vol.  
**29**  
September, 2018

ナウイズ  
毎月11日発行

熊谷達也  
in  
女川町



# まっさらなキャンバスに描かれた、新しいまち。



三陸の美しさを再認識するサイクリングツアー

熊谷達也さんは、東日本大震災後、週末ごとに沿岸部を通った時期がありました。「なんでそんなことをしているのか、自分でも分からなかった。でも、人知を超えた惨状を目の当たりにして、なぜか、どうしても見なきゃと思っ」

直後の女川町にも訪れました。跡形もなくなった市街地を見て、女川は本当に再生できるのか、と感じたと言います。「どういうかたちでまちが戻れるのか、正直想像できませんでした。その時と比べると、よくここまでと感じます。完璧にモダンになりましたね」。レンガ敷きの女川駅前広場やシーパルピア女川を歩きながら、熊谷さんは話します。「ここは、海から昇る初日の出が正面に見える設計なんですよ。考えられていますね」。



「女川駅って石巻線の終点でしょう。終点で電車を降りて、自転車を組み立てて、その先は自分の足で進む、ってロマンがありますよね」と熊谷さん。

熊谷さんのこの日の目的は、女川を自転車で行くこと。「女川町や石巻市などをめぐるサイクリングツアー」。そう、サイクリングという取り組みが気になっているんです。先日はこのツアーを利用して牡鹿半島を走りました。実は、熊谷さんは熱狂的なサイクリスト。自分の力で汗を流して三陸の自然を走るのは、やっぱりいいですね。自転車だからこその見える景色があります。ぞらうみサイクリングの副代表で女川町出身の庄子和行さんも、その言葉にうなずきます。

## 仙台市在住の作家・熊谷達也さんと自転車めぐる、海が見えるまち・女川。

「震災をきっかけに、私たちは女川や石巻の良さを再認識しました。三陸はロードバイクに乗る人にとって、すごく理想的な場所なんです。海が見えたかと思つと山になって、信号もほとんどない。そういう場所ってなかなかないんですよ。漁業体験などを組み合わせたリして、三陸を好きになって何度も来たくなるツアーを目指したい」と庄子さん。

熊谷さんは持参した自転車にまたがり、「バルトラインの大六天駐車を目指します。急な

坂道も、車で追いかける取材チームが置いて行かれそうなスピードで駆け上ります。たどり着いた大六天駐車場から見下ろす女川湾は、7年前、あの津波があつたとは思えないほどに澄んだ青。「地元の人たちは、あれだけひどい目にあつているのに、ちっとも海を恨んでいないんです。海とともに生きています。シーパルピア女川からも海が見えるでしょう。海が見えるまちを選択するというのは、大変なことだったと思いますが、それでも努力をかけた分だけ意味がある

ことだと思えます。走り、泊まり、食べて。女川の復興の目撃者に



休憩スペースのほか震災時の写真や映像も展示している「たびの情報館ぶらっと」。



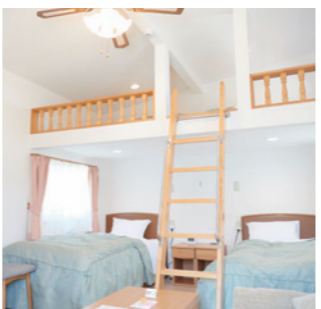
レンタサイクルはロードバイクやクロスバイクも設置

う。「朝5時から準備して、サンマのすり身汁をお配りするんですよ」と遠藤さん。舞台裏の話に花が咲きました。

ひと休み。ここでは、レンタサイクルも設置されています。「観光客はもちろんです。町民にも利用してもらえたら、女川の良さを再認識してほしい」と事務局長の遠藤琢磨さん。女川駅前には「ツール・ド・東北」の際に、エイドステーションとして多くのサイクリストを迎えます。熊谷さんも利用したことがあるそ



「震災後、私は女川の人が好きなんだなあと気が付きました」と話す「エルファロ」女将の佐々木里子さん。



トレーラーハウスを利用した「エルファロ」の客室は、ロフト付きやツインなどがある。

「今日は、まちが立ち上がってきていることを肌で感じました」と熊谷さん。「沿岸部は、津波で全部壊っていかれてしまつた。だから、これは、新しい絵が描けるキャンバスのような場所なんだと思います。震災を契機に、皆、自分のまちはどうあるべきなのか、いろいろ考えたでしょう。そのとき思い描いた絵が、まだ完成形にはなりません。が、出来上がりつつある。女川は、いいかたちで再生していくんだ、と安心できた一日でした」。これからはもっと、沿岸部を自転車で行ってみたい、と熊谷さんは笑顔を見せてくれました。

**PROFILE**  
熊谷 達也  
くまがい たつや  
1958年、宮城県生まれ、仙台市在住。気仙沼市などで数学の教員を勤めたのち作家に。2004年『邂逅の森』で、第17回山本周五郎賞と第131回直木賞をダブル受賞した。東日本大震災後は、架空の街「仙河海市」を舞台に、震災をテーマにした作品を8作発表している。

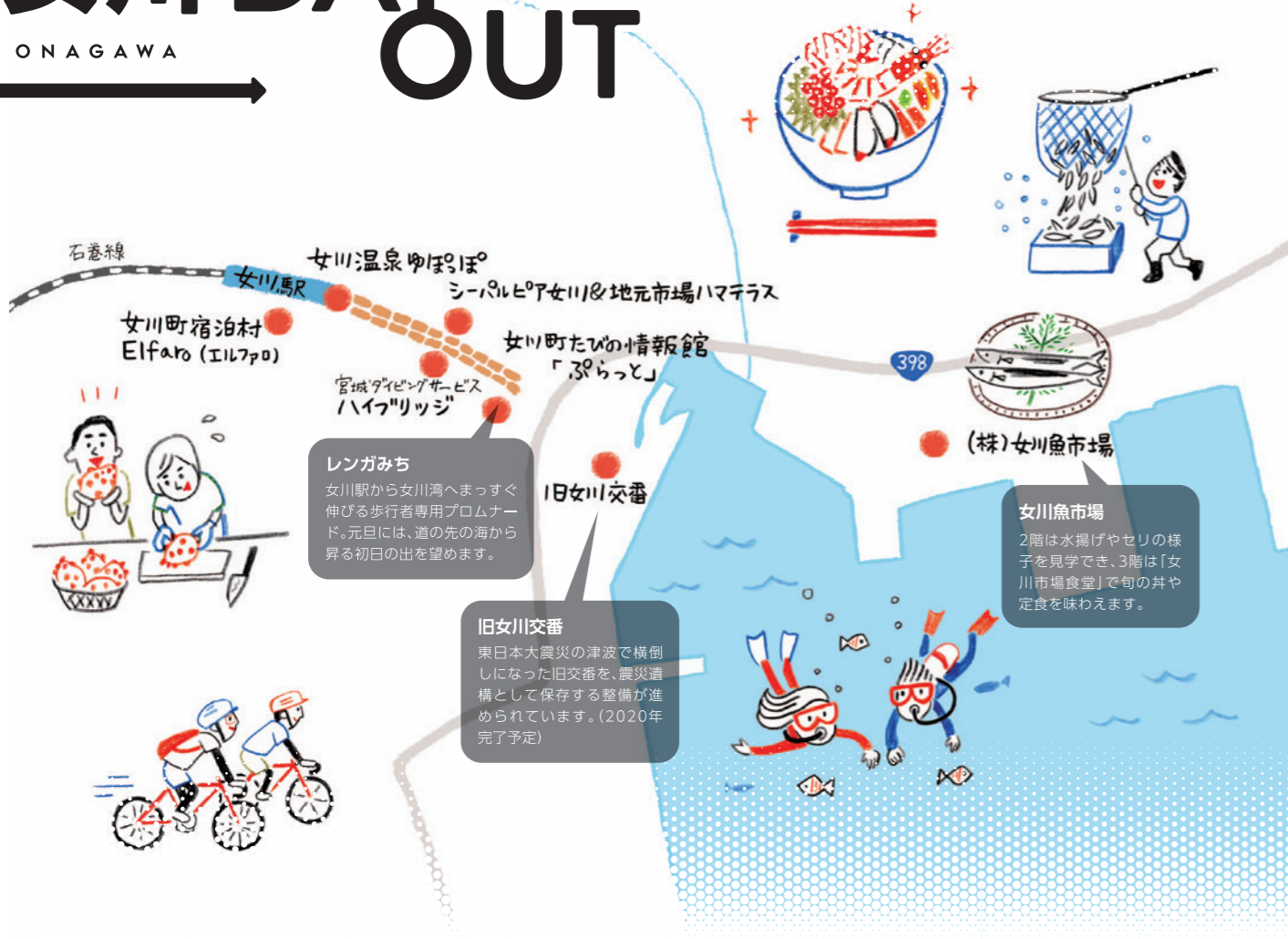


# 女川 DAY OUT

ONAGAWA

女川で休日

女川駅から海へ伸びるレンガみち周辺には、テナント型商業施設「シーパルピア女川」や、女川近海の新鮮な魚介類を堪能できる「ハマテラス」があり、水産業体験やダイビングなども楽しめます。



取材  
こぼれ話  
**VOICE**  
FROM  
STAFF

## そらうみサイクリング

「10万人に1度だけ来てもらうよりも、ひとりの人に10回来てもらえるような、そんなことを目指しています」。そんな副代表の庄子さんの言葉がとても印象的でした。

「そらうみサイクリング」は女川町や石巻市の牡鹿半島でサイクリングを通じ、地元民ガイドだから行ける特別なスポットや食体験、浜の人たちとの交流を提供する体験型アクティビティ。サイクリング初心者も気軽に参加できます。



<https://www.soraumicycling.com>

宮城県の東日本大震災死者数(関連死含む) **10,566人** | 行方不明者数 **1,224人** | 2018年7月31日現在宮城県危機対策課調べ

# Support Power

PROFILE

女川町 企画課 原子力対策係兼防災係  
こいずみ ひろゆき  
小泉 寛幸 さん  
青森県六ヶ所村より女川町に派遣

the 応援職員

NOW IS.  
女川  
Onagawa



全国屈指のサマの水揚げ量を誇る女川町。今年は例年より早く、8月28日に初水揚げされました。



女川原子力発電所から5km圏内の住民に、安定ヨウ素剤を配布。



全国原子力発電所所在市町村協議会の長期派遣事業に応募し、核燃料の再処理工場がある青森県六ヶ所村から、原子力発電所がある女川町に派遣された小泉さん。2018年4月から、女川町企画課原子力対策係兼防災係に所属しています。

担当するのは原子力関連の業務。原子力に対する住民理解の促進を図るために、関連施設の視察などを計画。それに伴う資料作成や視察先との調整などを行っていただきます。また空間放射線量の定点測定や、原子力防災体制の確立に向けたさまざまな業務にも携わっています。

六ヶ所村では6年間原子力対策課に所属していた小泉さんですが、消防団に関する運営や自主防災組織の育成などを担当していたため、原子力関連業務に

深く関わることはなかったとのこと。「六ヶ所村でやってきた業務とは違いますが、戻ってからも絶対に役立つ仕事なので日々勉強しています」。

女川原子力発電所は停止中ですが「まずは原子力に対する正しい知識を深めてもらうために、自分ができることを精一杯やっていきたいと思っています」。

着任当初こそ緊張したというものの、今ではすっかりまちに馴染んでいる様子の小泉さん。「派遣されてきた自分たちに対して『ありがと』と感謝してくださる気持ちですごく伝わってきます。とてもあたたかい人が多いですね。上司は仕事だけでなく、まちの情報やおいしいお店も教えてくれるし、よく飲みに行ったりしてくださるんです。居酒屋でサラッと出かける海産物がいっぱいあります。遊びに来てくれた友人も喜んでいました。派遣職員同士の交流もあって、休日には一緒に趣味の釣りに行くこともあるんです。派遣期間は1年の予定ですが、今後も「自分たちが女川を盛り上げるんだ！」と復興に取り組み職員の姿勢から多くのことを学び、微力ながらも復興の力になりたいと思います。まちでの生活を心から楽しみながら、小泉さんは女川町のために尽力し続けます。

女川町のこれからのために理解を深めてもらいたい

## info/area

{エリア情報} 復興や防災にまつわるニュースをお伝えします



**第21回おながわ秋刀魚収穫祭2018**  
サマの水揚げが、全国でも有数のまちとして知られる女川町。サマ炭火焼き1万尾・すり身汁4千食振る舞い(募金制)のほか、各種出店やステージイベントなど、食べる・見る・参加する・美味しい・楽しい、まちをあげてのサマの祭典です。

- 日時: 9月30日(日) 9時~16時
- 場所: 女川駅前商業エリア
- ☎0225-24-8118 (おながわ秋刀魚収穫祭実行委員会事務局)



**新女川町庁舎が10月1日に開庁**

これまで建設を進めてきた新しい女川町庁舎が完成し、10月1日(月)に開庁します。新庁舎は女川駅南側の安全な高台に建設され、役場機能のほか、ホールや図書室からなる生涯学習センター、保健センター、子育て支援センターを含む複合施設で、利便性・機能性が高く、みなさんが快適に過ごすことのできる施設となっています。

※新庁舎での業務は、9月25日(火)から開始します。

☎0225-54-3131 (女川町役場)

MONTHLY GUIDE

今月のガイド

株式会社エルファロ女将

佐々木 里子 さん

「見届けられることも支援なんです。震災直後に被災地を訪れなかったことを後悔のめたく思う観光客がいると、そこを答えるのがいいです。復興の目撃者になれるのは今なんですよ」と話す、ある観光客は「また来る目的ができたとリピーターになってくれたよ。」

女川町の中心街にあるホテル・エルファロは、ハマテラスで買った食材をホテルでBBQしたり、「ゆぼっぽ」の温泉に入ったり、帰りの足を気にせず商店街で飲み歩いたり、利便性が抜群に化し続ける女川を、ぜひ見届けに来てください」と笑顔で佐々木さんは話してくれました。

僕を育ててくれた  
宮城の海。ここで、  
これからも生きていく



(上) 行方不明者捜索時の写真。海中には船の瓦礫が残っている。  
(左) スノーケル教室は2013年夏から毎年行われている。  
(右) 店内ではグッズ販売も。

次の世代へ、海のすばらしさ、豊かさを伝えていきたい

女川駅前の商業施設「シー・バルピア女川」でダイビングショップ「ハイブリッジ」を経営する高橋正祥さん。生まれも育ちも仙台で、大学卒業後、1年会社員として働き、ワーキングホリデーでオーストラリアに滞りました。「ありきたりですけど、そこで体験したダイビングにハマってしまったんです」。こうして、オーストラリア、グアム、サイパンなどのダイビングショップで働き、28歳のときに帰国。帰国後は、神奈川県葉山町のダイビングショップに勤めます。

充実した毎日を送っていた高橋さんの日常が大きく変わったのが、あの東日本大震災でした。自身の実家は仙台、父の実家は石巻、母の実家は南相馬と、震災直後から家族の安否を心配して、「不安で眠れませんでした」と話します。

震災から4日後の3月15日、山形経由で仙台に帰ってきた高橋さんは、父とともに石巻へ物資を運びつつ、親戚の安否確認を行いました。津波の被害はあったものの、幸いなことに親戚は皆無事でした。「最初は、親戚の家の泥の掻き出しを手伝って。そのうちに、行方不明の方の捜索や、海のがれき撤去の話聞いて、2011年の6月から石巻・女川・岩手でダイバーとしてのボランティアを始めることになったんです。当時はまだ神奈川のダイビングショップで働いていましたが、とても理解を示してくれて、月に1度はこちらのほうに来て、お手伝いさせてもらっていました。」

そのときの高橋さんを突き動かしていたものは「やらなきゃ」という気持ちだったといいます。「僕は小さいときから海が好きで、石巻や女川の海でも遊んでいました。海に育ててもらったからこそ、今の僕があるんです。」

その後も故郷の海への思いは強まり神奈川のダ

イビングショップを退職。2012年4月に宮城に戻り、その2カ月後には「ハイブリッジ」をオープンさせました。「今にして思うと、よくやったと思いますよね(笑)。でも、まちも地元漁師さんたちもバックアップしてくださって。がれき撤去や行方不明の方の捜索が主でしたが、その時から『プロをここで育成しないと』という気持ちが強くありました。」

ここ数年では、ファンダイビングのお客さまも増えてきているそうで「僕自身、若いころは東北の海に興味を持てなかったんですけど、いざ潜ってみるとちゃんと四季があって、面白いんです。震災後、海が怖いと思うようになってしまった人もいるかもしれない。けれど、僕はこの海のすばらしさを次の世代に引き継いでいく役目を、この女川で果たしたいです。」

これまでも、これからも。高橋さんは海とともに、力強く生きていきます。

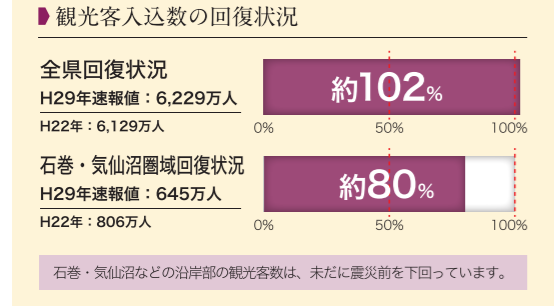


PROFILE

宮城ダイビングサービス  
ハイブリッジ代表&潜水士

たかはし まさよし  
高橋 正祥さん

1979年仙台市出身。ダイビングショップ運営のほか、子どもたちにスノーケリングや着衣泳なども教えており、今後子ども向けワークショップなどを増やしていく予定。



NOW IS. 29

発行：2018年9月11日 宮城県震災復興本部(事務局：震災復興推進課)  
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号  
Tel:022-211-2408 Fax:022-211-2493  
「復興情報発信プロジェクト NOW IS」は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

宮城県 Miyagi Prefectural Government

INFORMATION from MIYAGI

〔宮城県からのお知らせ〕

01 みやぎまるごとフェスティバル2018  
～技きりり 味きりり みやぎのふれあい、ここにあり。～

宮城県の素晴らしい「味(み)や技(ぎ)」を「まるごと」楽しめる秋の恒例イベントで、今年で19回目を迎えます。今年は、「技きりり 味きりり みやぎのふれあい、ここにあり。」をテーマに、県内各地の特産品、農林水産物、加工品、工芸品の展示、販売を行います。仙台味噌と県産食材を使ったお振る舞いや、宮城県産品がその場で当たるクイズラリー、県内大学サークルや仙台吹奏楽団によるステージなど、楽しいイベントが盛りだくさんです。この機会にぜひ宮城県へ!



まるフェス2017

日時/10月20日(土)・21日(日) 10:00～16:00  
場所/宮城県庁1階ロビー・県庁前駐車場・勾当台公園・市民広場  
●みやぎまるごとフェスティバル実行委員会(宮城県食産産業振興課内)  
☎022-211-2815

詳細は [みやぎまるごと2018](#) で検索

02 「明治150年」記念施策 全国運河サミットinみやぎ  
～日本一長い運河群の沿川から復興支援に対する感謝を込めて～

みやぎの誇る日本一長い運河群(北上運河、東名運河、貞山運河)の歴史を学び、運河沿川10市町や全国の運河沿川の取り組みを紹介し、未来のまちづくりへ生かすため、『全国運河サミットinみやぎ』を開催します。

日時/10月26日(金) 場所:仙台国際センター  
●基調講演 「明治150年」歴史に学ぶ地域づくり人づくり:加来耕三氏(作家/歴史家)  
●パネルディスカッション:愛知県半田市長、宮崎県日南市長、東松島市長、名取市長など  
●全国運河サミットinみやぎ宣言 ●運河・復興パネル展を同時開催

日時/10月27日(土) 場所:県内運河沿川  
●スタディツアー「運河沿川の震災復興の今」  
県内3ブロックでスタディツアーを開催  
①石巻・東松島方面 ②仙台湾・松島湾方面 ③仙台・名取・岩沼方面

ご参加には事前申し込みが必要(ホームページから申し込みください)  
●県河川課 ☎022-211-3173

詳細は [全国運河サミットinみやぎ](#) で検索



地域資産(井内石)を活用して復旧した東名運河(東松島市)

MEDIA INFORMATION

みやぎ復興情報ポータルサイト  
みやぎ復興情報ポータルサイトは  
こちらから!  
<http://www.fukkomiyagi.jp>

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報を  
ブログで!

今月のブログピックアップ

宮城発!  
元気と食の  
最新情報  
一般社団法人  
IkiZen  
このブログでは、被災地企業や団体のさまざまな取り組みをご紹介します。今回は、石巻市雄勝町の「雄勝硯生産販売組合」。黒色で優雅な光沢を持つ雄勝石を使った商品の取り組みをご紹介します。

震災遺構  
宮城県内では、多くの伝承施設や復興モニュメント、震災遺構の整備が進められています。このブログでは、震災の記憶の風化防止や防災意識を高めるために、宮城県内の震災遺構を紹介します。  
今回は、東松島市の被災した旧野蒜駅舎を改修した東松島市震災復興伝承館と震災遺構の旧野蒜駅プラットフォーム、慰霊碑が立つ広場からなる「東松島市東日本大震災祈念公園」をご紹介します。

詳しくは、「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧ください。

- いまを発信!復興みやぎ SNS「いまを発信!復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしています。ハッシュタグ「#fukkomiyagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。
- NOW IS.メールマガジン NOW IS.の発行日(土日・祝日のときは翌平日)にメールでお知らせします。 [NOW IS.メールマガジン](#) で検索して登録!

宮城の「今」を発信  
河北新報社  
震災の伝承や  
防災・減災に取り組む  
活動をご紹介します。

巡回ワークショップ「むすび塾」  
震災教訓を「未災地」にも伝承  
河北新報社は2012年5月から1回、「むすび塾」というワークショップを続けています。対象は町内会や子供会、職場などの地域の集まりで、専門家と一緒に震災を振り返り、その場に必要なる防災策を考えながら教訓を掘り起こし、具体的な備えを促します。2014年6月からは、次なる被災が予想される地域の地元メディアと共催。「未災地」への教訓伝承にも努めています。インドネシアやチリなど海外でも開き、開催実績は8月で81回を数えました。ワークショップの内容は毎月11日の月命日に詳報しています。

むすび塾

2018.9.11

Vol.

29

September, 2018

ナウイズ  
毎月11日発行

宮城は現在も  
いま  
現実に  
立ち向かう。

# NOW IS.



High Bridge  
Miyagi diving service

高橋 正祥  
ハイブリッジ

## これからも、 女川の海とともに

豊饒の海として、いにしえの時より、多くの人たちを惹きつけてきた女川の海。

震災では甚大な被害を受けましたが、ここ数年の間に駅前も整備され、観光客も多く訪れるようになりました。

そんな駅前施設のひとつである「シーパルピア女川」で、ダイビングショップ「ハイブリッジ」を営むのが、高橋正祥さ

んです。仙台市出身で、大学卒業後にダイビングの世界に魅了され、世界中の海に潜り、その海に人々を案内することを仕事としてきた高橋さん。

震災当時は神奈川県にいたという高橋さんが、今、女川でダイビングショップを経営するということについて、お話を伺いました。